

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の異議や目的を全職員に伝え、全職員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果はミーティング等で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項について、その経過を報告し合い、改善議題を話し合ったりと取り組んでいる。また、これまでの評価結果を公表し、取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現場や利用者の課題解決のため市町村へ解決策を相談したりし関係づくりを行うように取り組んでいる。運営推進会議、自己、外部評価の報告も確実にしている。	○ 市町村担当者に対して、事業所の実態やサービスの取り組みについて今後更に報告、相談し関係作りを積極的に行っていききたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が外部研修に参加しており、職員へ伝達している。家族に対しては制度について情報提供をし、制度を希望する方がいる場合には、管理者が中心となって支援している。	○ 今後更に、機会あるごとに職員への説明を行うとともに勉強会でも取り上げ、職員の理解を深めていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などで高齢者の虐待などについて話し合い、虐待がないように努めている。また、虐待があった場合は速やかに管理者に報告し、事実と原因究明に努める体制となっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づき時間を十分にとって丁寧に説明している。事業所として出来ることとできないことを明確にしました、料金に関することや、重度化や看取りについての対応について詳しく説明し同意を得ている。また利用者の状態の変化により、契約解除に至る場合も家族等と話し合い対応している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が要望や苦情を出しやすいように働きかけを行っている。また、要望や苦情を表せない利用者に対しては、その様子を観察しながら日々のケアの中で理解できるように努めている。出された苦情については改善するように対処している。	○ 利用者から出された要望について、対応できる事とできない事があるので、できない事の場合は、本人に納得してもらえるように説明をしている。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の日常のついては、月に一度のお手紙などを利用して行っている。面会時にも会話を持つようにし伝えている。健康面の報告は変化がある場合は随時電話などで行っている。預り金の報告は、一人ひとりの使い方に違いがある為、残金が少なくなってきたら明細を報告するようにしている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの不満や苦情は窓口を設けているが、職員の誰でもが受けるようにしている。また、出された苦情に対しては速やかに改善するように努めている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り、勉強会等で意見を聞くようにしている。また、日ごろからコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に合わせた人数を確保できるように勤務調整を行っている。	○ 行事や買い物日などは予め必要な人数での配置にしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定し顔なじみの職員によるケアを心がけている。離職等でやむを得ない場合も引き継ぎ等で最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはなるべく多くの職員が参加できるように計画している。研修に参加した場合は、復命書を提出し研修内容を全職員が共有できるようにしている。内部研修にも取り組んでいる。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの圏域にあるグループホームの職員との交流と、勉強会を行うための、講師や場所の提供にも積極的に取り組んでいる。また、他グループホームとの訪問し合い職員同志の交流も深めている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃から、職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。親睦会を開催し気分転換を図れる機会をつくっている。職員同士の間関係も把握するよう努めている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	頻度に現場に来ており、職員の業務を把握している。また職員の資格取得に向けた支援を行い本人の意向を重視しながら、取得後は、職場内で活かせる環境をつくっている。職員が向上心を持てるよう職能評価を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期面談で、生活状態や本人の求めている事ことや不安を理解しようと努力している。サービス利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身状況や本人やご家族の思いを傾聴している。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が求めている物を理解し、これまでのご家族の苦労や敬意について、ゆっくりと話しを聞くようにしている本人やご家族の思い等を確認し支援の提案相談を繰り返し、必要に応じてケアマネージャーとも連携し対応している。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを利用できるように、利用者や家族の話しを聞くようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常生活の中で利用者の感情を察知するように努めている。また、一人ひとりが出来ることやしたい事を、行えるように支援したり見守りをし、一緒に出来る事は一緒に行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人や家族との話しから、その関係性を把握するように努めている。本人が安心してここでの生活を続けられる様にサービスを提供し、家族がいつでも会いに来れるように情報の交換を行っている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの利用者と家族との関係性を把握するように努めている。さらにお互いのより良い関係を維持できるように、職員が間に入り連絡や支援を行っている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の場所から入所している利用者に関しては、ある程度は把握しており、その場や人々とのとの関係を維持できるように支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が、できる事をしながらお互いに孤立する事なく生活できるように支援に努めている。一人ひとりの個性や相性を把握するように努め、お互いが居心地よい環境を作れるように努めている。	○	手伝いをお願いする場合は、一人ひとりの得意な事やできる事を見極め、洗い物や洗濯物たたみ、掃除機をかけるなど、それぞれにあった仕事をお願いするようにして、皆が生き生きと達成感のある時間を持てる様に支援している。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した後でも、その家族や本人との関係を断ち切らないようにしている。必要に応じて相談などに応じている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は本人の希望や思いを把握するように努めている。また、意志をあらわせない利用者に対しては、その立場になり考えるようにしている。また、家族の希望や意向を聞くようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みのことについては、入居時の情報だけではなく、日々の生活の中から理解するようにしている。また、必要な場合は、家族やその周辺からの情報収集に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりがその人らしく1日を喜怒哀楽を共にし、共感できるように総合的に把握し支援に努める。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意見だけではなく、本人では気付いていない生活の場でのニーズを、日々の観察の中から気づき、職員、家族に意見と共に介護計画に反映するようにしている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。毎日の様子観察により身体・心身状態の変化が見られる場合は、家族や主治医などの関係者と話し合い、現状に即した新しい計画書を作成するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を記録し、その情報を全職員が共有するように努めて実践し、介護計画の見直しにも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、ご家族の状況に応じて通院や送迎の支援を行い、また医師、看護師との連携のもと医療処置を受けながら生活が継続できるよう柔軟な対応をするなど努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員の訪問や、地域行事への参加（花見やねぶた）を行いながら支援している。また、防災訓練などを通じて消防との連携を図られるように緊急システムを備えている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望や状況に応じて、町内の訪問理美容サービスを利用したり、近隣事業所と話し合い、交流が持てるよう支援している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員が運営推進会議の参加は勿論、行事等への参加も働きかけ参加して頂いている。また勉強会の開催や情報交換、相談することによって協力関係を築いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人が母体になっているので、定期的な往診や健康相談、緊急の場合は24時間体制で適切な医療を受ける事ができる。	○	かかりつけ医院以外でも、必要があれば医師との相談により紹介状を通して連携を図っている。
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が主体となり、診療や治療を行なっている。また、必要や希望がある場合は主治医の紹介状を得て、治療や診断を受けられるように支援している。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週2回の健康相談日を設け、馴染みの看護師に相談できるシステムを作っている。また、介護のうえでの必要なアドバイスも相談できるようになっている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の状態、退院に向けた介護内容、看護サマリーや伝達などで情報を得て、今後の生活に役立つケアを考え、受け入れる体制を整えている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けて、予め本人や家族ならびに主治医と話し合い、その後も状態の変化に応じて繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	○	家族の希望により、本人に対して苦しい治療は望まないとの事から、自然にまかせた看取りを、今年の4月に経験している。
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるように、主治医と共にチームとしての支援に取り組むように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族に関わる関係者間で、話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に言葉かけや対応に気を配り、記録などの個人情報の取り扱いにも注意を払っている。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの希望を話しやすい雰囲気づくりや、自己決定しやすい対応に心がけ、その人らしく暮せるような支援に努めている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に支援に沿えるような支援に努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	おしゃれに気を配る利用者に対しては、一緒に洋服を選んだりアドバイスをしている。また、口腔ケアや清潔感のある身だしなみが出来るように支援している。理容・美容については希望があればその都度、希望されない場合は定期的に勧めようようにして対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立とし、体調、状況をみながら調理、盛り付け、配膳、片付け等も利用者と共に、職員と利用者が一緒にテーブルで楽しく食事がとれるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこに関しては主治医の許可を必要とするが、今のところ特に希望されている利用者はいない。飲み物やおやつは糖尿病のある利用者の事も配慮している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の状況は記録で把握し、失敗を減らせるようにその人に合わせた誘導を心掛けている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行われ、一人ひとりの希望を聞きながら、バイタルチェック後に入浴をしている。入浴を好まない利用者に対しては、時間をおいて声を掛けをしたり、別の職員が誘うなど、楽しんで入浴ができるように工夫している。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせた昼寝や休息の取り方を尊重しながら、夜間も安心して就寝できるような雰囲気づくりに努めている。	○	夜間に眠れないような時は、ゆっくりと話し相手をするなどして、気持ちが満たせるような対応を心掛けている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族や本人からの生活歴の聴き取りや日頃の様子から、本人の出来る事（例えば洗濯物たたみ・洗い物、犬の散歩など）で役割意識を持っていただいたり、ドライブや買物、散歩に誘う事で気晴らしが出来るように支援に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者が金銭管理を行なうことの重要性を理解している。自己管理できている利用者は数名いるが、管理できていない利用者については、家族と相談の上、金銭を預かり、場面に応じて財布を渡し自分で支払いを行えるように配慮している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望により、車や徒歩または車椅子にて、近隣への散歩やドライブ、買物などに出かけている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と出かけたり、職員や他職員と一緒に出掛ける機会を作って支援をしている。また、マイクロバスを借りて、ホーム全体での外出支援も行っている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者全員ではないが、希望される場合は好きな時（あくまでも常識的な時間を考えて）に電話をしたり、手紙のやり取りは行なっている。また、希望で代筆の支援も行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、お茶や椅子の提供をして会話など楽しめるスペースを作れるようにしている。また、小さな子供の面会時には、ジュースやぬいぐるみを提供する事もある。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、全職員が正しく理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについては、管理者や主治医から（運営者）から、家族に説明を行い、家族と相談しながら個々に対する対応策を実行するように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定以外にも、個々の利用者の異変の発見に努め、気付いた時には職員同士が情報を確認するようにし、管理者や主治医に対応を仰ぐように努めている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報があり、いつでも確認できるようになっている。職員は個々の服薬について理解し、確実な服薬の支援と症状の観察に努めている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼るのではなく、排便チェック表などでリズムを把握して、水分補給やメニュー作りの工夫、その人に合った運動の支援に取り組んでいる。また、薬の服用で様子を見る場合は、主治医の指示を得ながら、本人に合ったものを探っている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	言葉掛けをしながら毎食後の口腔ケアをしている。これまでの生活の中にその習慣がなかった利用者へは、本人の意思を尊重しながら口をすすぐ事からはじめ、習慣化できるように支援している。異常が発生した場合は、家族と連絡を取り歯科医の訪問を依頼している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎飲食の記録を取り、個々の状態や習慣に応じた支援をしている。その内容とし、トロミをつけたり刻み食にして食べやすくしたり、器などに気を配るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	常とうがい手洗いの習慣を身につけ、消毒液などを活用して、感染マニュアルに沿った予防に努めている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	熱やハイターによる消毒や殺菌を毎日行い、食材は用途に合わせた保存（冷凍やチルド）をしている。また、新鮮な食材の利用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りに花壇や畑を作り、その近くには椅子などを置いて、誰もが座って会話できるようにしている。また、玄関には介護犬を置き、コミュニケーションの役割をしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や日常の習慣（例えば、正月・ねぶた・七夕・クリスマスなど）に沿った飾り付けをしたり、テレビの音量を調整したり、居心地良く過ごせるように工夫をしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファで気のあった利用者同士が過ごせるように話題やお茶の提供をしたり、希望によって一緒に歌を歌ったりゲームなどを行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談をして、今まで自宅で使用していたタンスや椅子、鏡台などを持って来ていただいたり、家族の写真や好きなカレンダーを飾り、窓際には草花やぬいぐるみを置いて、居心地の良い工夫をしている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は24時間換気システムが備えてあり、毎日の気温と湿度を記録をとっている。また、窓の開閉を利用して利用者の状況に合わせた換気も小まめに行うように努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーはもちろんのこと、廊下・トイレ・浴室などには手すりを付け、ドアの取っ手も握りやすくしている。また、危険な物は取り除くだけでなく、その都度、話し合いをして出来るだけ自立した生活が出来るようにしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ベットや家具を各自が使いやすい配置にし、ドアには目印を付れたり、日めくりや季節の装飾品を置く事で、場所や日時がわかりやすくなるように工夫している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	廊下での往復運動や、小上がりを利用した軽い体操などいつでも行えるようになっている。また、それぞれが窓際やテレビの近くなど好きな場所で過ごす事が出来ている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○医療法人として病院が母体となっている事で、医療面での緊急時は迅速に対応できる。また、週1回の往診、週2回の健康相談により医師や看護師へ気軽に相談できるシステムとなっており、利用者や家族にとって健康面での不安軽減が図られている。

○家族と医院との相談により、ターミナルケアへの対応を行い、最期までご本人様のQOLに添えるよう職員が一丸となり勤めた。

○地域との交流を深める為、町内ネブタへ利用者と職員が有志で参加をしている。また、休憩所の提供を行っている。普段、お祭りなどにぎやかな場所への外出が少ない利用者にとって、目の前までお祭りが来て頂けるという事は、ここ浅虫ならではの事とを感じる事が出来る。